



2021年12月1日

**メンタルヘルス対策のための「プレゼンティーズムチェック」導入
 ～日本初！ラインケアのスキームを構築～**

SOMPOひまわり生命保険株式会社（社長：大場 康弘、以下「当社」）は、SOMPOヘルスサポート株式会社（社長：平塚 徹）が提供する Wfun(Work Functioning Impairment Scale) を活用した「プレゼンティーズムチェック」を健康経営における新たなメンタルヘルス対策として 2021年11月より導入しました。

1. 背景・目的

近年、働き方の変化（在宅勤務、リモートワークの増加など）により、個々人のメンタルヘルスケアが社会的な課題であると言われています。

当社においても、このような働き方の変化に融合し、生産性の維持向上のためには、社員自身によるセルフケアだけに留まらず、所属長によるラインケアを継続的に実施し、習慣化させる必要があるという観点より、ラインケア・専門カウンセラーによる三位一体の「プレゼンティーズムチェック」を導入しました。

2. 内容

当社で実施する「プレゼンティーズムチェック」は産業医科大学で開発された健康問題による労働機能障害の程度を測定するための調査票（パルスサーベイ）である WFun を利用します。7つの質問から労働機能障害の程度の大小を測定し、疾病休業との関連、面談の補助ツールとしての有用性が確認されています。

※プレゼンティーズムとは：生産性への影響度を評価する指標として「アブセンティーズム」と「プレゼンティーズム」の2つが“企業の「健康経営」ガイドブック（経済産業省）”において定義されており、一説によると「プレゼンティーズム（不調を抱えながら仕事を続けている状態）」による損失は、「アブセンティーズム（疾患による病休）」による損失よりも多いと言われています。

WFunの特徴

| | |
|------------|---|
| 7つの質問項目 | 調査票は、簡易な7つの質問のみです。 例：「ていねいに仕事をする事ができなかった」 |
| 疾患非特異的 | 特定の疾患や症状を対象としていません。どのような疾患や症状であれ、労働機能の障害を経験している状態を測定します。 |
| 医療情報を用いない | WFunの質問項目には、健康情報は用いられません。そのため、必ずしも保健医療職でない職場の担当者でも、取り扱いやすい内容となっています。なお、医療情報を用いていませんが、医学的な症状やその後の休職リスクと強く関連することが示されています。 |
| 一次元性と局所独立性 | この調査票は、「労働機能障害の程度」という、一つだけの概念を測定します（一次元性と呼びます）。また、回答は、回答者の「労働機能障害の程度」のみによって規定されます。 |
| 総点のみの評価 | WFunは総得点が全ての情報を保有しています。質問項目ごとの回答パターンを分析する必要はありません。（統計的に、「総点が sufficient statistics」と呼ばれる特徴です） |

| | |
|-----|--|
| 客観性 | <p>数学的な性質上、評価は、性、年齢、職種などによって、解釈が影響されません。(同じ点数であれば、どのような属性でも、同程度の労働機能障害を経験していると解釈可能) この特徴があるため、年齢構成や職種に関係なく、部署間や、会社間のベンチマークが可能です。</p> |
|-----|--|

当社においては「プレゼンティーズムチェック」の結果を、会社および産業保健スタッフと連携し、適時適切なサポート態勢を構築します。また、所属長が管下社員の結果を確認することで、不調の早期発見を実現し、職場環境改善に役立てることを目指します。ラインケアのサポートについては、SOMPOヘルスサポート株式会社の専門カウンセラーが行ないます。なお、このラインケア・専門カウンセラーによる三位一体のプレゼンティーズムチェック導入は日本初となります。(2021年12月1日時点、当社調べ)

3. 今後の展開

今後も当社は、お客さまの毎日の健康を応援する「健康応援企業」として、社員とその家族の健康・維持増進のため、健康経営の推進を強化し、安心・安全・健康な社会の実現に貢献していきます。

以上